

TMS サーバの移行手順

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[TMS の移行](#)

[準備](#)

[SQL データベースのバックアップ](#)

[SQL CLI の使用](#)

[SQL Management Studio](#)

[TMS レガシー エージェント](#)

[TMS バージョン 14 以降からの移行](#)

[ローカル ファイルの保存](#)

[SQL のデータベースの復元](#)

[SQL CLI の使用](#)

[SQL Management Studio の使用](#)

[データベース復元後の操作](#)

[TMS バージョン 14 以降からの移行](#)

[TMSPE の使用](#)

[TMS レガシー エージェントの使用](#)

[TMS ツール ユーティリティの使用](#)

[インストール後](#)

[TMS レガシー エージェントの使用](#)

[古いサーバの削除](#)

[TMS エージェント診断の実行](#)

[VCS への TMS エージェント レプリケーションの有効化](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Structured Query Language (SQL) データベースの場所を移動するオプションを使用して、Cisco TelePresence Management Suite (TMS) データベース アプリケーションを 1 台のサーバから別のサーバに移行する手順について説明します。

注: 1 台の Microsoft Windows サーバからの別のサーバにローカル ユーザ アカウントを移行する方法はありません。TMS サーバにアクセスするためにローカルの Microsoft Windows アカウントを使用する場合、新しいサーバにこれらのアカウントを手動で作成する必要があります。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Microsoft SQL Server
- Cisco TMS

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づくものです。

- TMS バージョン 12、13、および 14
- TMSPE バージョン 1.0
- Microsoft SQL Server バージョン 2005 および 2008

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

TMS の移行

このセクションでは、TMS を移行するために使用するプロセスについて説明します。

準備

注: TMS レガシー エージェントを使用する場合は、まずすべてのデバイスへのレプリケーションが無効になっていることを確認します。

以下のすべての TMS Microsoft Windows サービスをシャットダウンします。

- TMS エージェント サービス
- TMS データベース スキャナ サービス
- TMS ライブ サービス
- TMS PLCM ディレクトリ サービス
- TMS スケジューラ サービス
- TMS サーバ診断サービス (TMS Server Diagnostics Service)
- TMS 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) サービス

TMS プロビジョニング拡張機能 (tmspe) を使用する場合は、その機能もシャットダウンします。

注: TMS レガシー エージェントを使用する場合、TMS の [TMS Agent Settings] ページの下

部で設定する完全修飾ドメイン名 (FQDN) (通常は、Microsoft Windows で設定されている TMS の FQDN) は、Video Communication Server (VCS) が FQDN でバックアップを実行するときに TMS の IP アドレスに解決できる必要があります。逆のバックアップも存在している必要があります。

SQL データベースのバックアップ

SQL データベースのバックアップと復元に使用する方法は、2 通りあります。CLI は SQL がインストールされているすべてのシステムで使用できます。SQL Management Studio は、必要に応じて、Microsoft からダウンロードして使用できます。

SQL CLI の使用

現在、SQL データベースが TMS サーバ アプリケーションと同じサーバに存在し、そのデータベースを新しいサーバ (TMS または別個の SQL インスタンスをホストする新しい Microsoft Windows サーバ) に移動する予定の場合、データベースをバックアップし、新しい場所に復元する必要があります。

このセクションで説明されているコマンドは、tmsng データベースで SQL Express インスタンスをホストする現在の TMS サーバのコマンド プロンプト内に入力します。これらのコマンドは、現在ログインしている Microsoft Windows ユーザでの SQL サーバへのアクセスを可能にするために使用されます。SQL ログイン クレデンシャルを使用するには、**-E** を **-U <username> -P <password>** で置き換え、SQL クレデンシャルとシステム管理者権限を持つユーザ名とパスワードで置き換えます。

TMS データベース

CLI を使用して tmsng SQL データベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
sqlcmd -S (local)\SQLTMS -E -Q "BACKUP DATABASE tmsng TO DISK='<path>\tmsng.bak'
```

このコマンドを使用する場合、<path> をバックアップを保存する場所に置き換えます。この場所にはバックアップのための十分なスペースが必要で、SQL サービスがこの場所にアクセスできる必要があります。

TMSPE データベース (TMSPE を使用する場合)

tmspe を使用する際に、CLI から tmspe SQL データベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
sqlcmd -S (local)\SQLTMS -E -Q "BACKUP DATABASE tmspe TO DISK='<path>\tmspe.bak'
```

新しいサーバへのファイルのコピー

新しい SQL サーバの場所にバックアップ ファイルをコピーします。この場所は、別の SQL サーバにすることも、SQL Server Express を実行する新しい TMS サーバにすることもできます。

注: SQL サービスのユーザには、バックアップ ファイルをコピーする場所へのフル アクセスが必要になります。

SQL Management Studio

このセクションでは、SQL Management Studio を使用する際のバックアップ プロセスについて説明します。

TMS データベース

現在の SQL サーバで、SQL Management Studio を開き、tmsng データベースに移動します。データベースを右クリックし、[Tasks] > [Back Up...] に移動します。

バックアップ プロンプト ページで、以下のように設定されていることを確認します。デフォルトの宛先が指定されている場合があります。バックアップを格納するためにこの場所を使用する場合は、[OK] をクリックします。バックアップは指定された場所へ送信されます。宛先の場所が指定されていない場合は、[Add] をクリックし、[...] をクリックして tmsng のファイル名を入力します。次に、3 つすべての画面で [OK] をクリックすると、データベースのバックアップが実行されます。

注: アクセスが拒否されたことを示すメッセージを受け取った場合、SQL サービスのユーザが書き込み可能な場所を指定していることを確認します。通常、これには Microsoft SQL (MSSQL) 内のバックアップ フォルダが含まれています。

TMSPE データベース (TMSPE を使用する場合)

tmspe を使用する場合、上記のステップを実行しますが、tmsng データベースの代わりに tmspe データベースを右クリックします。このバックアップに tmspe.bak という名前を付けます。

新しいサーバへのファイルのコピー

新しい SQL サーバの場所にバックアップ ファイルをコピーします。この場所は、別の SQL サーバにすることも、SQL Server Express を実行する新しい TMS サーバにすることもできます。

注: SQL サービスのユーザには、バックアップ ファイルをコピーする場所へのフル アクセスが必要になります。

TMS レガシー エージェント

TMS レガシー エージェントを使用する場合、古い TMS サーバで Windows Explorer を開き、%OPENDS_HOME% > db > userRoot に移動します。

次に例を示します。

C : > Program Files > TANDBERG > TMS > provisioning > OpenDS-2.0 > db > userRoot

新しい TMS サーバの一時的な場所に *.jdb ファイルをコピーします。

TMS バージョン 14 以降からの移行

TMS バージョン 14 以降を実行する場合、tmsng データベースにクレデンシャルを安全に格納するために使用される暗号キーが存在します。このキーは、古いサーバから新しいサーバにコピーする必要があります。古いサーバからこのキーを収集するには、TMS ツールを開き、[Encryption Key] を選択します。次に、キーをコピーします。

注: これは、TMS をインストールするときに使用されます。

ローカル ファイルの保存

TMS には、エンド ユーザによってカスタマイズされたファイルが含まれている場合があります。それらの場所を確認する必要があります。以下の場所にカスタマイズされたファイルが存在する場合、それらのファイルを保存し、再インストール後に新しい TMS サーバの場所にそれらをコピーします。

以下のディレクトリはデフォルト パスです。

- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > CiscoSettings
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > CompanyLogo
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > ExternalSourceFiles
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > Image
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > Language
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > Logo
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > Map
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > MGCSettings
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > Software
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Data > Sound
- C : > Program Files > TANDBERG > TMS > wwwTMS > Public > Data > SOFTWARE

SQL のデータベースの復元

SQL データベースのバックアップと復元に使用する方法は、2 通りあります。CLI は SQL がインストールされているすべてのシステムで使用できます。SQL Management Studio は、必要に応じて、Microsoft からダウンロードして使用できます。

SQL CLI の使用

このセクションでは、SQL CLI の使用について説明します。

TMS データベース

注: 続けるには、SQL サーバ (バージョン 2005 または 2008) または SQL Server Express (バージョン 2005 または 2008) の現在のコピーが必要です。

新しい TMS サーバで SQL Express を使用してデータベースを収容する場合、TMS をインストールしてから、アンインストールします。これによって、データベースを復元するために必要な SQL Express インスタンスを作成できます。データベースをバックアップから復元すると、データは上書きされるため、インストール中にリリース キーおよびオプション キーを含める必要はありません。別の SQL サーバを使用する場合、TMS をインストールしてアンインストールする必要はありません。

SQL サーバまたは SQL Server Express のいずれかを実行するサーバで、SQL データベースを復元するために、このセクションで説明されているコマンドを入力します。これらのコマンドは、現在ログインしている Microsoft Windows ユーザでの SQL サーバへのアクセスを可能にするために使用されます。

SQL ログイン クレデンシャルを使用するには、**-E** を **-U <username> -P <password>** で置き換え、SQL クレデンシャルとシステム管理者権限を持つユーザ名とパスワードで置き換えます。また、以下の置換を実行する必要もあります。

- **servername** を SQL サーバのホスト名で置き換えます。
- **instancename** を SQL サービス インスタンス名で置き換えます。
- **<pathofbackup>** 変数をバックアップ (.bak) ファイルの場所で置き換えます。
- **<pathofdbfiles>** 変数を、データベース MDF ファイル (**tmsng_data.mdf**) を格納する場所と、データベース LDF ファイル (**tmsng_log.ldf**) を格納する場所で置き換えます。

SQL バージョン 2005 にデータベースを復元する必要がある場合は、次のコマンドを入力します。

```
sqlcmd -S (local)\SQLTMS -E -Q "BACKUP DATABASE tmspe TO DISK='<path>\tmspe.bak'
```

SQL バージョン 2008 にデータベースを復元する必要がある場合は、次のコマンドを入力します。

```
sqlcmd -S (local)\SQLTMS -E -Q "BACKUP DATABASE tmspe TO DISK='<path>\tmspe.bak'
```

TMSPE データベース (TMSPE を使用する場合)

tmspe SQL データベースを SQL バージョン 2005 に復元するには、次のコマンドを CLI に入力します。

```
sqlcmd -S (local)\SQLTMS -E -Q "BACKUP DATABASE tmspe TO DISK='<path>\tmspe.bak'
```

tmspe SQL データベースを SQL バージョン 2008 に復元するには、次のコマンドを CLI に入力します。

```
sqlcmd -S (local)\SQLTMS -E -Q "BACKUP DATABASE tmspe TO DISK='<path>\tmspe.bak'
```

SQL Management Studio の使用

このセクションでは、SQL Management Studio の使用について説明します。

TMS データベース

新しい SQL サーバの SQL Management Studio を開きます。 [Databases] を右クリックして、 [Restore Database] を選択します。

[Source for restore] フィールドで、 [From device:] オプション ボタンをクリックし、 **tmsng.bak** ファイルの場所を入力します。 [Select the backup sets to restore:] フィールドで、 [tmsng-Full Database Backup] チェックボックスをチェックします。 [To database:] フィールドで [tmsng] を選択し、 [OK] をクリックします。 これで tmsng データベースが復元されます。

TMSPE データベース (TMSPE を使用する場合)

tmspe データベースを復元するために使用されるプロセスは、 tmsng データベースを復元するために使用されるプロセスと同じです。しかし、 **tmsng** バックアップ ファイルの代わりに **tmspe** バックアップ ファイルを選択し、 **tmsng** データベースの代わりに **tmspe** データベースを選択します。

注: 新しいデータベース サーバで、 SQL ブラウザ サービスが実行されていることを確認します。 このサービスが実行されていないと、 tmspe インストールは失敗します。

データベース復元後の操作

データベースを復元した後、次の手順を実行します。

1. TMS サーバ アプリケーションをホストするため、新しいサーバに TMS を再インストールします。
2. [custom install] を選択し、新しい SQL サーバの場所を指定します。

TMS バージョン 14 以降からの移行

インストール プロセス中に、元の TMS サーバからコピーする暗号キーを入力します。

注: ある状況下では、このフィールドはグレー表示される場合があります。 その場合、インストールが完了した後、TMS ツールをロードし、そこに暗号化した文字列を入力します。次に TMS サーバを再起動します。

TMSPE の使用

TMSPE を使用する場合、TMS サーバの TMSPE を再インストールし、新しいデータベースの場所を指定します。

TMS レガシー エージェントの使用

TMS レガシー エージェントを使用する場合は、次の手順を実行します。

1. TMS エージェントの Microsoft Windows サービスを停止します。これにより、OpenDS Windows サービスも停止されます。
2. %OPENDS_HOME% > db > userRoot を参照します。次に例を示します。C : > Program Files > TANDBERG > TMS > provisioning > OpenDS-2.0 > db > userRoot.
3. そのフォルダにあるすべてのファイルを削除します。
4. 古い TMS サーバからコピーされた .jdb ファイルをそのフォルダに移動します。
5. TMSAgentService Microsoft Windows サービスを開始します。

注意： 現時点では TMS ポータルにアクセスしないでください。

TMS ツール ユーティリティの使用

TMS サーバのホスト名が変更され、ローカル ユーザ アカウント (TMS サーバ アプリケーションをホストするサーバに存在するユーザ アカウント。Active Directory (AD) アカウントではありません) を使用する場合、ログインできるようにするために、TMS ツールのユーティリティを実行して、データベース内のデータを変更する必要があります。

- [TMS Tools] > [Utilities] > [Change Users Domain] に移動します。
- 古いドメイン名を入力します (<古い TMS サーバのホスト名>)。
- 新しいドメイン名を入力します (<新しい TMS サーバのホスト名>)。

警告： これを実行しないと、TMS ポータルにアクセスできなくなる可能性があります。

注: ローカル ユーザ アカウントは、この移行プロセス中に新しいサーバに移動されません。ローカルの Microsoft Windows アカウントを使用する場合、TMS を移行する新しい Microsoft Windows サーバ上で手動で再作成する必要があります。

インストール後

TMS のサイト管理者権限を持つユーザ アカウントで TMS ポータルにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. [Administrative Tools] > [Configuration] > [General Settings] に移動します。
2. [Software FTP Directory] の値が新しいサーバ インストールの正確な値であることを確認し

ます。新しいサーバ（古いサーバと比較した場合）に後から異なるドライブを使用して TMS をインストールした場合、または、32 ビットから 64 ビットバージョンの Microsoft Windows Server オペレーティングシステム（OS）に切替えた場合、この値は正確でない可能性があります。

3. [Administrative Tools] > [Configuration] > [Network Settings] に移動します。

4. 以下のフィールドの値を確認します。

[General Network Settings] > [URL Where Software Packages Can Be Downloaded]

[Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN] > [TMS Server IPv4 Address]

Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN] > [TMS Server IPv6 Address

[Advanced Network Settings for Systems on Internal LAN] > [TMS Server Fully Qualified Host Name]

[Advanced Network Settings for Systems on Public Internet/Behind Firewall] > [TMS Server Address]（完全修飾ホスト名または IPv4 アドレス）

TMS レガシー エージェントの使用

TMS レガシー エージェントを使用する場合は、次の手順を実行します。

1. [Administrative Tools] > [Configuration] > [TMS Agent Settings] に移動します。
2. [Global] > [Settings] セクションで、[LDAP Configuration Password] と [LDAP Replication Password] にパスワードを入力します。この操作により、これらのパスワードはデータ ストレージの場所と同期されます。
3. 新しいサーバ インストールの [TMS Agent Backup] > [Backup Directory] の値が正確であることを確認します。新しいサーバ（古いサーバと比較した場合）に後から異なるドライブを使用して TMS をインストールした場合、または、32 ビットから 64 ビットバージョンの Microsoft Windows Server OS に切替えた場合、この値は正確でない可能性があります。

古いサーバの削除

ページの下部付近にある [TMS Servers] セクションで、複数の TMS サーバが表示されることがあります。その場合、次の手順を実行して、古いサーバを削除します。

1. マシン名をクリックして、[Delete] を選択します。
2. 新しいマシンでは、ネットワーク アドレス（FQDN および IP アドレス）が正しいことを確認します。ネットワーク アドレスが正しくなかったら、次の手順を実行します。

[Edit] をクリックします（右にあります）。

新しい TMS サーバの正しい FQDN アドレスを入力し、[Update] をクリックします。

ページの上部付近にある [Global] > [Settings] セクションで、新しい LDAP 設定パスワードと LDAP レプリケーションパスワードを入力します。

ページの下部付近にある [Save] をクリックします。

TMS エージェント診断の実行

[Administrative Tools] > [TMS Agent Diagnostics] に移動し、ローカル TMS エージェントの TMS エージェント診断を実行します。

注: TMS エージェント診断が失敗した場合、シスコの「TMSAgent トラブルシューティング手順」にあるガイドを参照してください。

VCS への TMS エージェント レプリケーションの有効化

VCS への TMS エージェント レプリケーションを有効にする際に留意すべき注意事項を以下に示します。

- tmspe を使用する場合、それを再インストールし、tmspe データベースの現在の場所を指定する必要があります。
- 分析拡張機能を使用するときに、古い TMS サーバにそれらがインストールされている場合、新しいサーバにそれらを再インストールする必要があります。
- Microsoft Exchange 用の TMS 拡張機能を使用する場合、設定ツールを使用して TMS サーバの新しい場所を指定します。
- ドメイン ネーム システム (DNS) のルックアップが原因でレプリケーションが失敗する場合、VCS が FQDN のルックアップを実行するときに、TMS の TMSAgent 設定ページの下部付近で設定される FQDN (通常は Microsoft Windows で設定される TMS の FQDN) が TMS の IP アドレスに解決可能であることを確認します。逆のルックアップも存在している必要があります。

関連情報

- [TMSAgent トラブルシューティング手順](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)